



## ○3月に帰任する先生・退職する先生をお知らせします

柳澤久美教頭先生、坂本美紀子先生、花岡綾子先生、比嘉賢友先生、森山暁生先生、立道洋史先生の6名の先生が3月で日本に帰任します。帰任する先生方には大変お世話になりました。ここでの経験をもとに、帰任地での一層のご活躍を期待いたします。またスペイン語講師のエステラ先生が3月で退職いたします。エステラ先生は日本コースに26年間勤務され、多大な尽力をいただきました。2月5日に行われる学院朝会で、リセオの児童・生徒や職員に対して離任及び退職のご挨拶をいたします。

## ○中2「ユカタン半島」修学旅行

1月8日(水)～10日(金)にかけて、中学2年生がユカタン半島方面へ修学旅行に出かけました。初日はメリダ空港からバスで移動し、ユカタン料理レストランで昼食をとり、ウシュマル遺跡とチョコレート博物館を見学しました。メリダ空港に到着した時から日差しが強く、湿気があり、高地のメキシコシティの気候とは明らかに違いました。昼食をとったレストランは、昔のアシエンダ(大農場)を改造したもので、アガベと呼ばれる木を栽培し、そこからエネケンと呼ばれる繊維をつくり、それをヨーロッパに輸出して大繁盛したそうです。しかし、化学繊維が出回ると衰退の一途をたどってしまい、一部をこうしたレストランに改造しているそうです。農園の中にはアガベを運んだトロッコの線路跡が当時の面影を残していました。そんな大農園の中にあるレストランは、長いひさしの下にありましたが、周りが木漏れ日につつまれてとてもさわやかでした。ゆっくりと食事を取り、その後、ウシュマル遺跡へと向かいました。ウシュマル遺跡やチチェンイツァ遺跡の見学、ユカタン料理やセノーテで泳いだことなど3日間はとても充実し、ユカタン半島について多くを学ぶことができました。

## ○「ちはやふる」本物を見ました

1月21日(火)に「競技かるた」のエキシビションを行いました。日本コース小松教諭とメキシコに留学している大学生3人の計4人が、本気で対戦するのを参観する、という企画でした。当日、女性3人は着物姿で、男性1人は胴着と袴姿で登場しました。相手に札を送ることによってプレッシャーをかけたり、お手付きに攻め込む方法や、手の出し方で心理状態を読んだり、奥深さも解説してもらいました。読手(どくしゅ)の声につられて全身が反応し、一瞬の静寂の後、ほぼ同時に札を取りに行く動きは、とても肉眼では捉えることができないほど素早いものでした。

日本コースでは、毎年この時期に「百人一首大会」をやっていますので、子どもたちも大変興味をもって見ることができました。教室にもどってから床に札を並べ、さっそく対戦している姿がいくつもありました。この企画が実現できたのは、ある方との会話の中で、「メキシコに留学している大学生が、競技かるたの有段者」という話題が出て、「本校の小松教諭も競技かるた式段の腕前」と結び付き、とんとん拍子に話しが進みました。5回の練習の後本番を迎えたということです。まさか、メキシコの地で「ちはやふる」の本物を見ることができるとは思いませんでした。